

《共同体で何よりも必要なものは、信頼感です》

おはようございます。

イエス様は色々な例えを語られたのですが、その中で特に面白い話を今日されましたね。

「自分の目にある丸太を見ないで、兄弟に向かって、『さあ、あなたの目にあるおが屑を取らせてください』と、どうして言えるだろうか。』(ルカ6・39-42)

イエス様が人間の心理について、心の働きについて、解からなくてこの様におっしゃったとは思えません。実際に他人のおが屑は大きく見えるものです。自分の丸太は見えません。自分の目の中の丸太が見られるほどの心の働きがあれば、その人は、霊的にも結構りっぱな人間になっている状態です。

大体私達は、自分の中にある丸太は見えません。見ようとしてもなかなか見えません。しかし、他人のおが屑は、何でもないちょっとした小さい事でもすぐに目に入るのが人間の弱さです。皆様はどうですか？ 私はそうなのですが、どうですか？(そうですと私達が答え)そうでしょう(解かっています私は。と司祭が答えて皆笑った)。そうしたら、攻める言い方を少し減らしましょう。批判する目も温かく寛大な目に変えましょう。結局、相手を批判して、そして攻めて、悪口を言う方が、自分の身を滅ぼす結果になってしまいます。

皆様、私達は信頼と言う言葉をよく解かっています。どうすれば相手に自分を信頼してもらえるのか、そして誰かが信頼感を自分に持っている、自分が誘惑に襲われても自分を信頼してくれる人々を考えて、その誘惑に負けないようになります。私達たち共同体が何よりも必要なことは信頼感です。その信頼感とは、お互いに弱いところを持っていても、出来るだけきれいな生き方をしようと、信仰生活にふさわしい生き方をしようとしている事を、お互いに認め合うことです。そう言う事がなかったらいつもどんな立場にいても、私達は冷たい目で相手を見てしまう恐れがあると思います。

皆様、イエス様は今日の話の文面で、全ての人々が自分の目の中に丸太がある事をはっきりおっしゃっています。私達は実際にそれを認識する事です。認識する事、認める事。それによってイエス様がおっしゃっているへりくだる心が出るのではないかと思います。

正義、正義と言いながら自分を正義化させなくて、周りのことだけ正したい気持ちになってしまうと、これは自分が作った罠に自分が落ちる事になってしまいます。皆様、イエス様はある意味で完璧な方だったので、よく攻めました。特に律法学者やファリサイ派の人々を攻めました。

次の日曜日(9月13日)に読まれる福音(マルコ8・27-35)の中でも、初代の教皇様になるペトロにさえ、“サタン”と言う強い言い方をなさっています。しかし、私達はそうではありません。いつも倒れる、いつも転んでしまう弱さを持っています。私達の望ましい態度は、その相手の目にあるおが屑が気になったら、その人の為に祈りましょう。「その人が自分でそのおが屑を見つけて、何とか取り除くようにイエス様導いて下さい。あのおが屑がものすごく気になって、私が落ち着いてられないのですが、どうか何とかなさって下さい。」と言う心で。その心がある意味で人間的だと思います。よく私達は指差します。よく考えて見ますと私達が犯す罪の中で九割がその指差しじゃないかと思いません。その指差し、すぐやり直す事が出来るにも関わらず、わたしたちは毎日繰り返して同じ事をしてしまうのです。

皆様、もう一度イエス様が謙遜な者になれとおっしゃった言葉の意味を考えて見ましょう。まず自

分の弱さを認める事から始めることです。自分の中にある自分の罪、「神様、あなたにこんなに恵みを頂いているのに、私はいつもあなたを拒んでいます。逃げています。避けています。」と言う自分自身を受け入れ、認める事が大切でしょう。その後、自分の事をよく把握出来たら、わきまえる事が出来たら、相手に対してもっと広い心が出来ると思います。

さあ、今日の使徒パウロのテモテへの手紙の真ん中の所に、この様な言葉がありますよね。

「わたしを忠実な者に見なして務めに就かせて下さったからです。」(テモテ 1・12-13)

忠実の意味はどういう意味ですか。心の中にある物でなければ実らない事です。忠実の元の意味は、忠実に何かをするということは、心で考えなかったら、心で動かなかったら実らない、そういう意味を持っています。心の中にあるものが実ります。

皆様、皆様の心の中に何があるかは分かりませんが、神様の御旨にかなうものだったら、必ず実ります。祈りも頭ではなく、言葉でもなく、心で祈って下さい。それが何よりも必要じゃないかと思えます。奉仕という言葉も私達は自らあまり使わないで下さい。私達には奉仕とか施しとかの言葉は許されていません。施しをされているかも知れません。奉仕されているかも知れません。その様な言葉を使うより、私達はただ弱い者として分かち合う事だけです。分かち合う心でこの共同体をいつも考えてみましょう。

ありがとうございました。